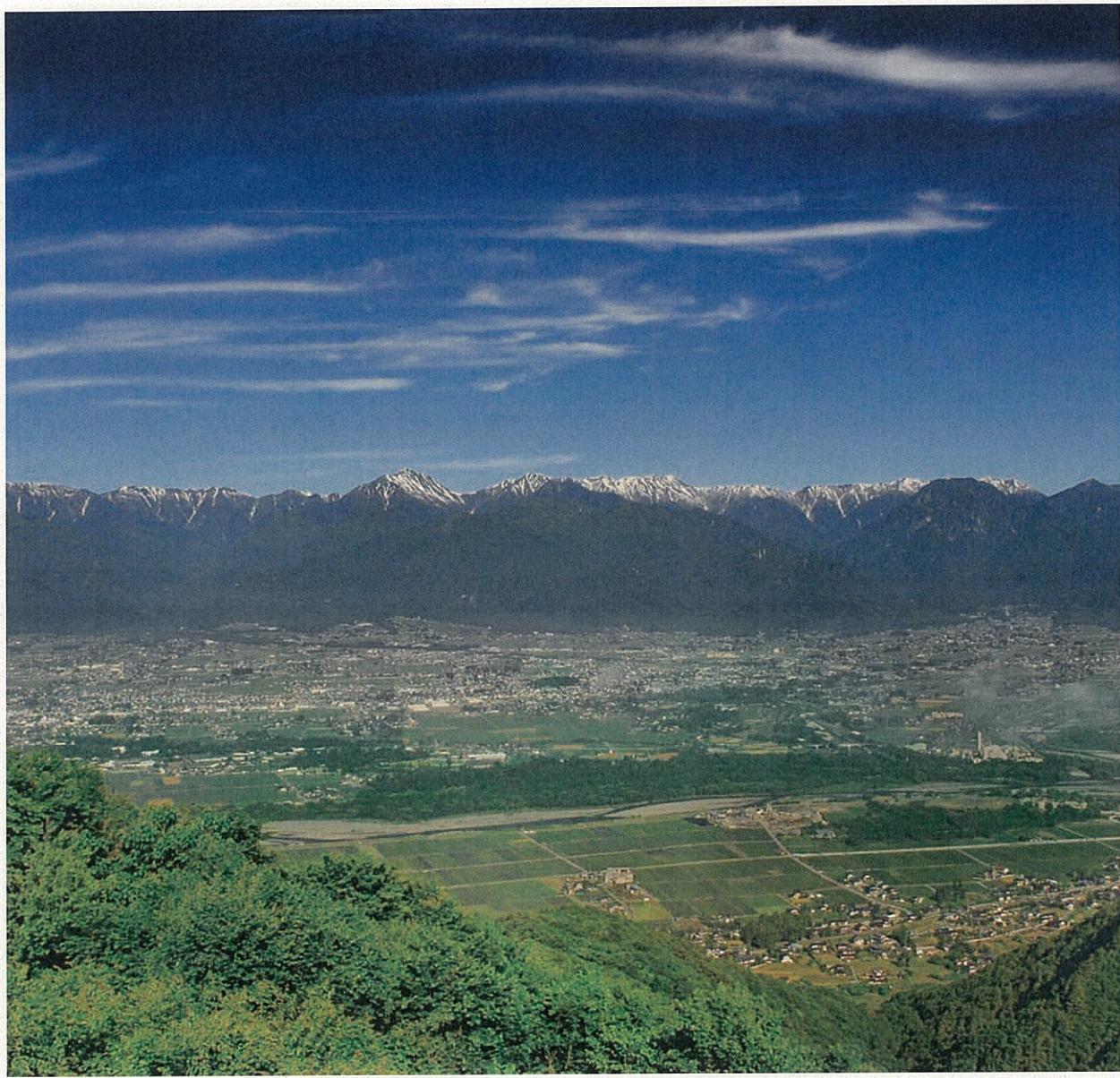


安曇野検定【自然科学編】
ジュニアの部 学習資料
「アルプスが育む安曇野の四季」



安曇野市教育委員会 社会教育課

目 次

1 安曇野の地形	1
扇状地	2
2 安曇野の地質	3 ~ 4
3 安曇野の地下水	5
4 安曇野の気候	6
内陸性気候の特徴	7
蒸発霧(蒸気霧)	
5 安曇野の雪形	8 ~ 9
6 安曇野の植生帯	10 ~ 11
外国からやってきた植物	12
7 安曇野に生息する代表的な生物	13 ~ 17

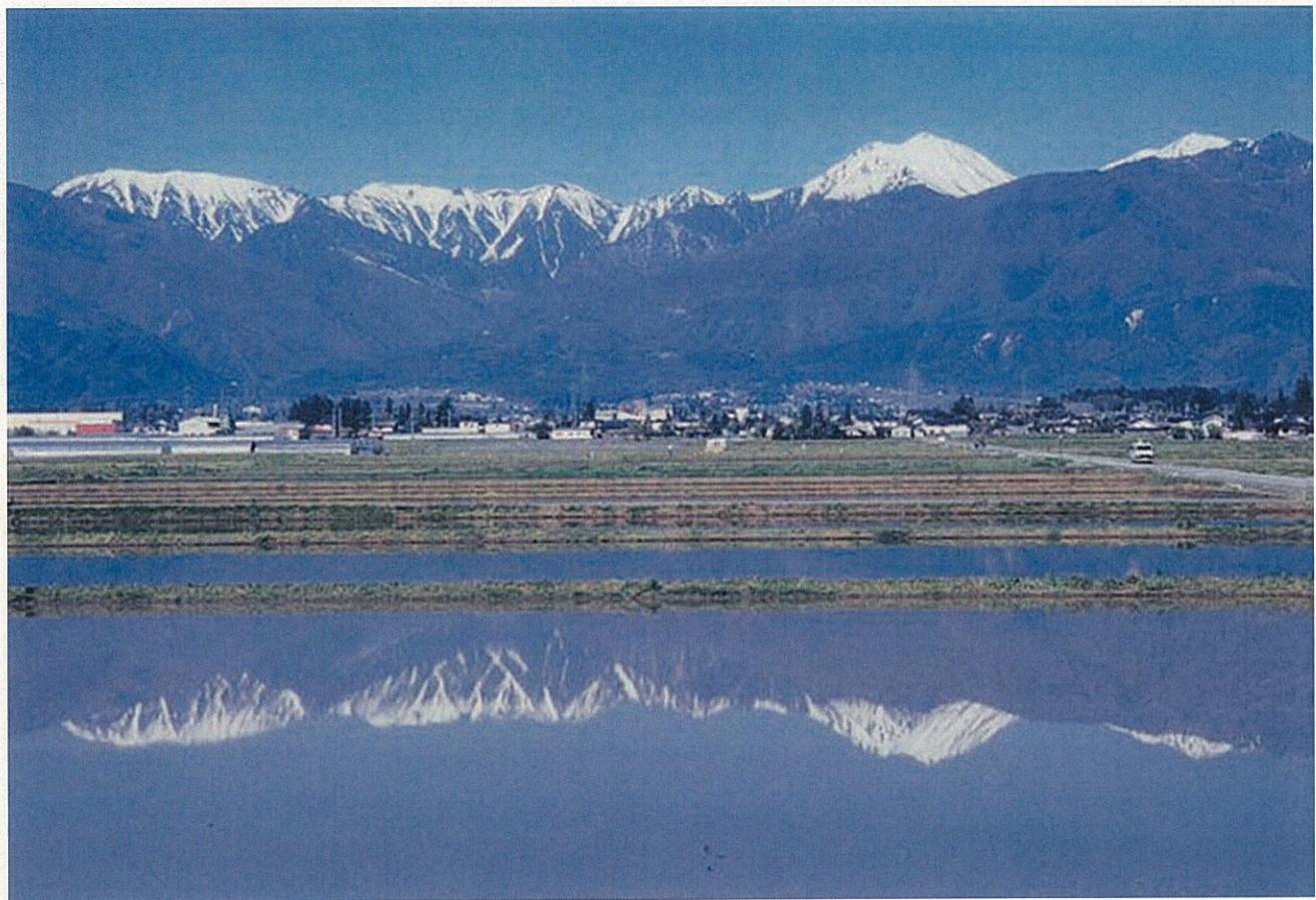
安曇野市を知ろう

私たちの暮らす安曇野市の魅力は、雄大な北アルプスの恵みと美しい田園風景です。

皆さんは北アルプスが私たちにどのような恵みをもたらしてくれているか知っていますか。また、昔の人々はどのようにして安曇野の美しい自然を育んできたのでしょうか。私たちは、いま目の前にある水田や堰や木々や草花をとおして自然とともに暮らしてきた人々の生活の知恵を学ぶことができます。

安曇野に湧き出すたくさんの地下水は、自然の恵みであると同時に、祖先が現代に生きる私たちに残してくれた、“かけがえのないプレゼント”です。祖先から受け継いだこの美しい安曇野の自然を未来に伝えていくために、私たちに何ができるでしょうか。安曇野の今を生き、学び、よく知ることで、もっと素晴らしい安曇野をみんなで創っていきましょう。

1 安曇野の地形



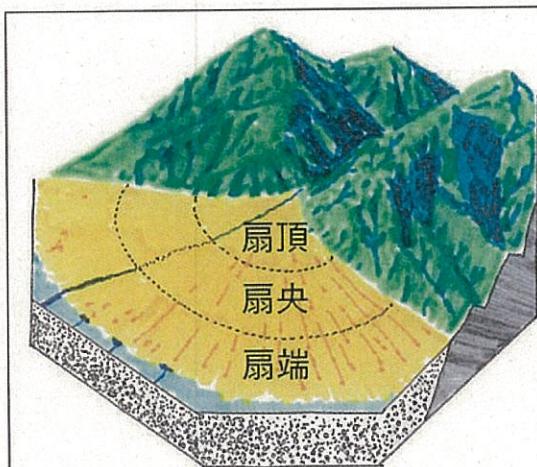
田園風景 穂高地域から

安曇野市の西側にそびえ立つ山々は飛騨山脈の一部で、蝶ヶ岳、常念岳、横通岳、大天井岳、燕岳など標高 3,000 メートル近い山々が連なっています。市の東側には筑摩山地の一部があり、光城山、長峰山、東川手の山々が標高 800 から 900 メートルの山地をつくっています。

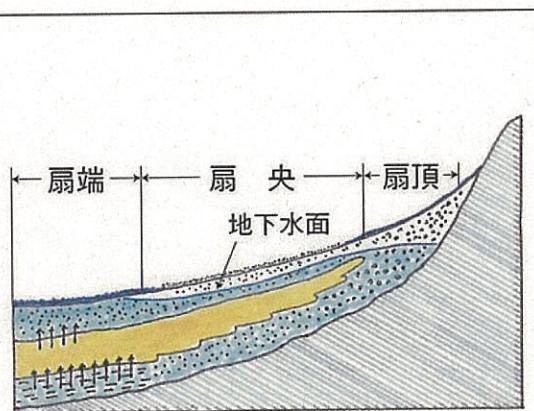
飛騨山脈・筑摩山地の間には松本盆地が広がっていて、私たちの住む安曇野市は松本盆地のちょうど真ん中付近にあります。

飛騨山脈から流れるいくつもの川は、長い年月をかけて安曇野の大地に扇状地と河岸段丘（川岸に沿って階段状にできた地形）を作り出しました。これらの川は穂高川、高瀬川、犀川となって流れ、明科の押野崎でこの 3 つの川が合流して（三川合流）、やがて日本海へとそそぎます。

扇状地



扇状地の模式図

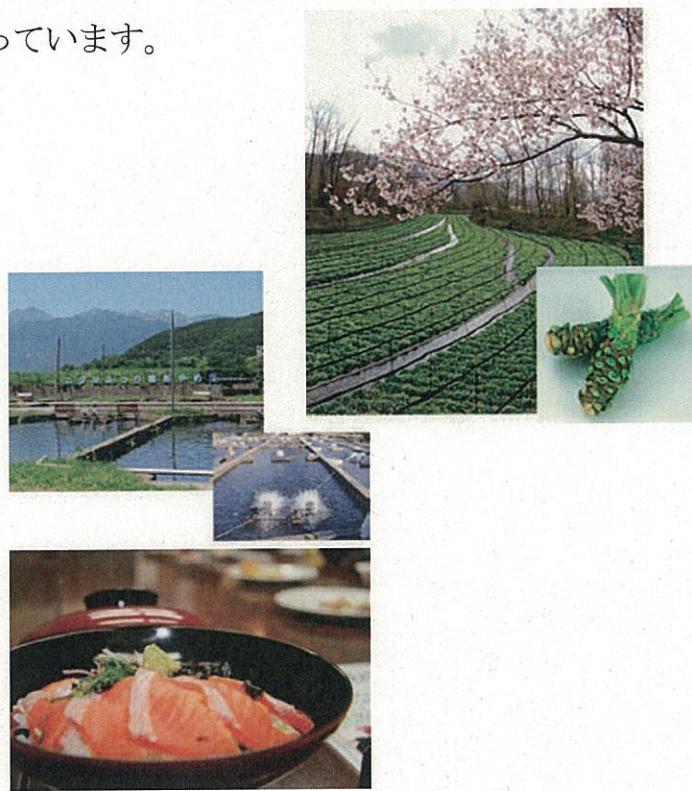


扇状地の断面図

(親子で学ぶ安曇野の拾ヶ堰ガイドブックより)

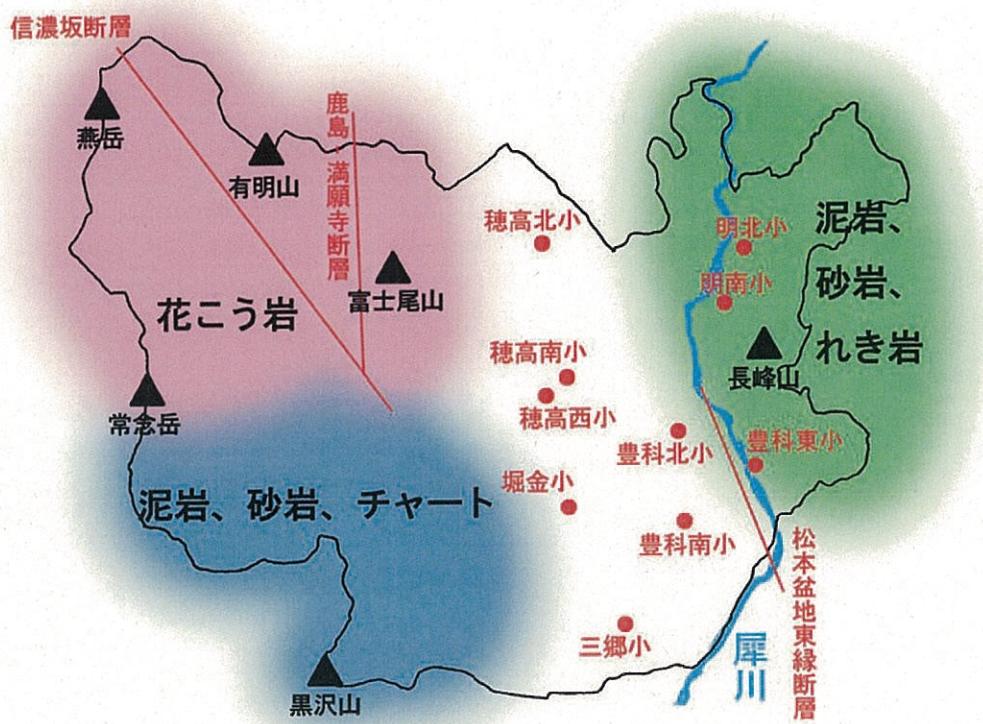
扇状地とは、川が山地から平らな土地へ流れ出る場所にみられる扇型の地形のことをいいます。ちょうど川が山から出る地点が扇の持ち手に、下流側が広げた扇のように見えるためこのような名前になりました。扇状地の頂点を扇頂、一番端の部分を扇端、真ん中を扇央と言います。長峰山のような高いところから安曇野をながめると、中房川、烏川、黒沢川、梓川などの河川による扇状地がいくつも重なって見えます。このように扇状地の重なり合った地形を複合扇状地といい、安曇野の特徴となっています。

扇状地は、川の水によって山から運ばれてきた、小石や砂などの土砂からできています。そのため、すき間に水をたくさん含むことができます。扇状地の扇端では、その水が湧き出していて、わさびの栽培やニジマスの養殖などに生かされています。



2 安曇野の地質

地質とは…大地を構成する岩石や地層の性質のこと。



安曇野市の地質のおおまかな図

安曇野の大地は、大きく分けて3種類の地質から構成されています。

まず、堀金地域や三郷地域の山は、主に恐竜の生きていた頃のとても深い海の底につもった泥や砂微生物の殻(放散虫:ほうさんちゅう)が固まってできた岩石からできています。泥が固まった岩を泥岩、砂が固まった岩を砂岩、微生物の殻が固まってできた岩をチャートといいます。これらは黒っぽく、とても固いのが特徴です。これらの地層は、地下の深いところで大きな圧力を受け、変形していることがあります。[上の図の青色の部分]

つぎに、穂高地域の山々を形づくっているのは、マグマが地下の深いところで固まってきた岩です。これを花こう岩(かこうがん)といいます。ごま塙のようなまだら模様で、全体的に白っぽいのが特徴です。[上の図のピンク色の部分]

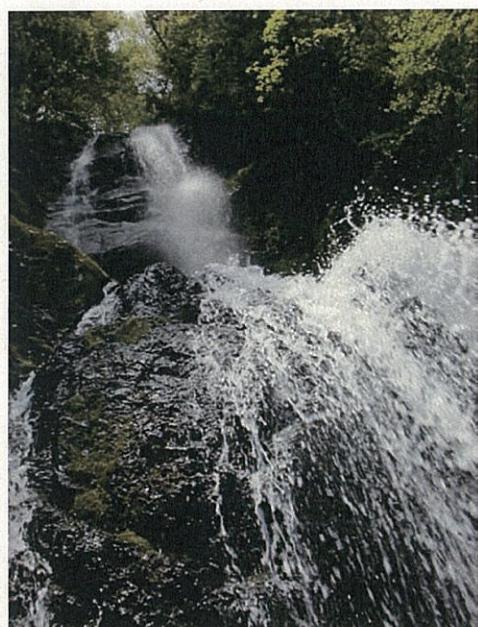
3つ目は、明科地域や豊科地域の東側の山をつくっている岩石です。こちらは、恐竜の時代が終わった後の時代の海に砂や泥、小さな小石が積もってできた、砂岩や泥岩、れき岩(れき:小石のこと)といった岩石でできています。つまり、西側の山より、東側の山のほうが新しい時代の岩石でできているということです。また、この地層には、魚や貝といった化石がたくさん含まれています。[上の図の緑色の部分]

さて、私たちが暮らしている場所はどうでしょう。私たちが暮らしている平地の地下にも、やはり近くの山と同じような岩石がひろがっています。しかし、平地では、それらの岩石の上に、川が運んできた小石や砂が厚くたまっています。これを砂れき層といいます。この層にはたくさんの地下水が蓄えられています。

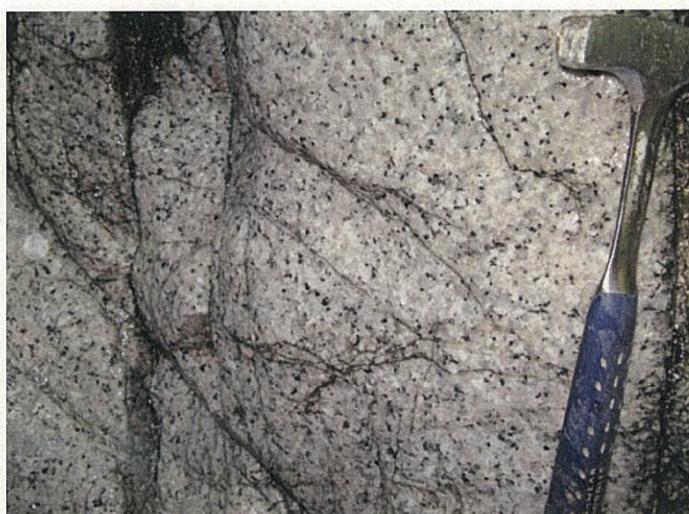
また、犀川付近には、松本盆地東縁断層という、大きな断層が走っています。西側の山の岩石と東側の山の岩石は、この断層を境にして西と東に広がっていると考えられています。西側の山にも、有明山の南西側にある信濃坂断層や、満願寺の裏を通る鹿島 - 満願寺断層などが知られています。



花こう岩（燕岳）

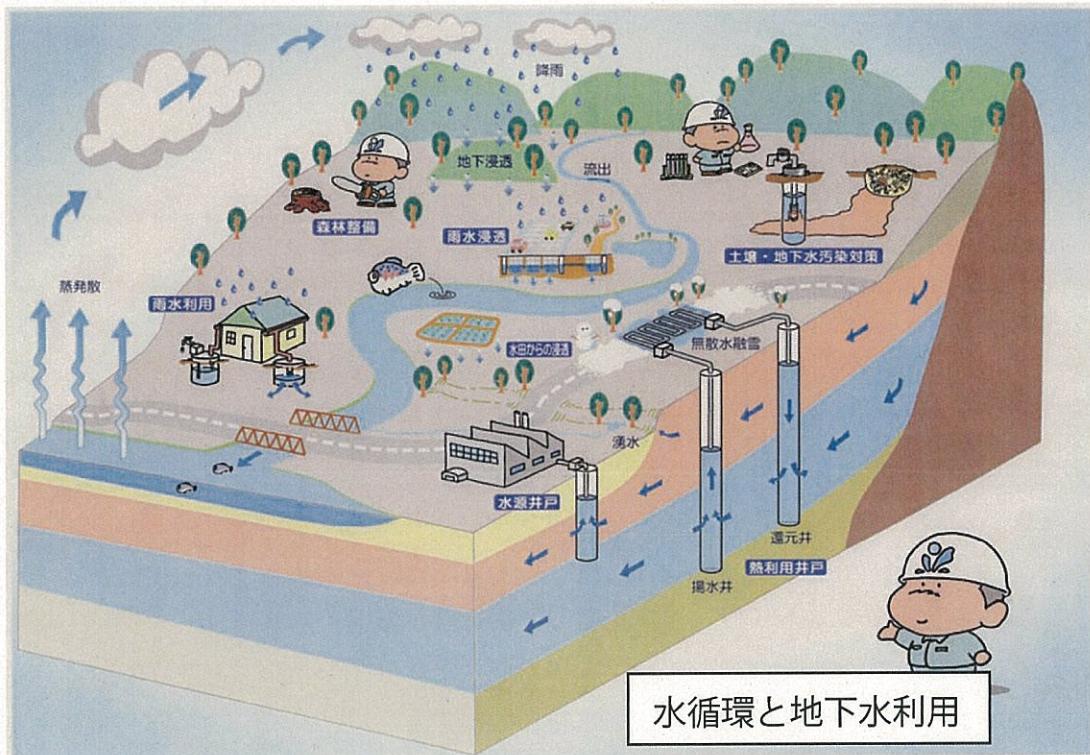


黒沢の滝のチャート



花こう岩の拡大写真

3 安曇野の地下水



株式会社サクセン提供

安曇野市は松本盆地のほぼ中央にあり、山や川から運ばれた小石や砂が積もってできています。小石や砂でできた地層は水を通しやすいので、山や平地に降った雨や雪、田んぼや川の水などが地下にしみこみ、地下水になります。安曇野市では昔からこの豊富な地下水を利用してきました。現在も地下水は、飲料水や魚の養殖、農業、わさび栽培、精密機械を洗うときなどに使われています。また、安曇野市の水道水の93%は地下水です。



地下水は、安曇野ならではの美しい風景も育んできました。三川合流部(穂高川、高瀬川、犀川)にわき出す地下水は、名水百選にも選ばれた日本を代表する名水です。この地下水は「安曇野わさび田湧水群」とよばれ、その美しい湧水地の風景を見るために、おおくの観光客がおとずれます。

このように地下水は、安曇野地域の人々のくらしや産業、観光と深くかかわっていて、欠かすことのできない大切な資源です。しかし最近、雨や雪の量が減ったり、水田が減ったり、さまざまな産業で多くの地下水が使われるようになったことで地下水が減ってしまい、井戸水が枯れたり、わさび栽培などに悪い影響が出て問題になっています。これ以上地下水が減らないように、地下水を守り、育てて、大切に使う方法をみんなも考えてみましょう。

4 安曇野の気候

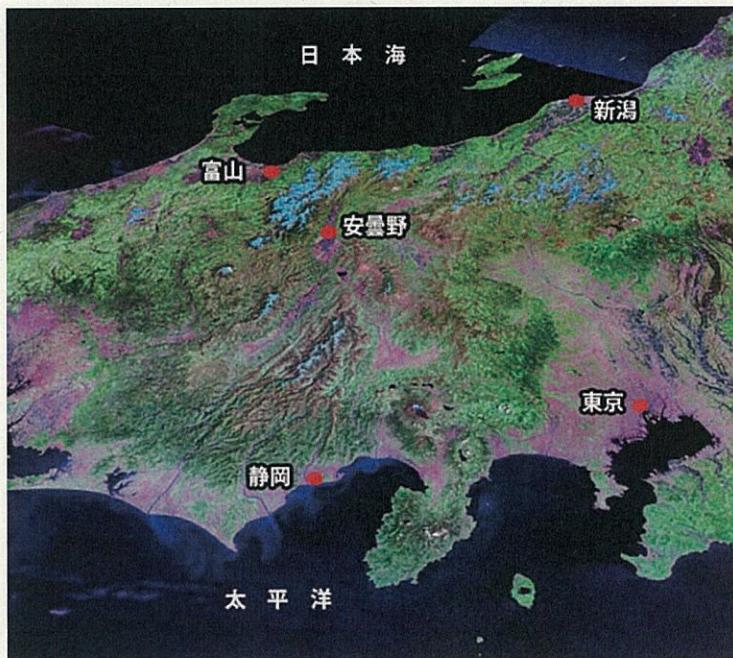
気候とは、ある地域の長い期間（日本では30年間の平均）の天気・気温・降水量・風向などの状態をあらわす言葉です。

安曇野市は周りを山に囲まれた盆地にあり、海から遠く離れているために1日、あるいは1年間の最高気温と最低気温の差が大きいのが特徴です。特に冬は寒く、安曇野より北にある富山や新潟の冬の最低気温のほうが安曇野よりもずっと高いのです。これは、海が気温の変化を和らげる役割を持っているからです。

安曇野市は1年間に降る雨と雪の量が、日本では少ない地域になります。とくに冬の季節の雨や雪の量が少ないと、太平洋側の都市と同じ特徴を持っています。

安曇野市の西側には北アルプスが南北にそびえています。山間地には冬の季節に平地よりもたくさんの雪が積もり、気温が夏でも低いため沢筋^{※1}に多くの雪を雪渓として残します。たくさんの雪は天然のダムの役割をして、夏にかけて盆地をうるおします。

また、秋から春にかけてよく晴れた夜は、地面から空に向かって熱がどんどん逃げてしまふため、朝方かなり冷え込みます。このような時に霧が発生します。特に大きな川沿いでは秋から初冬にかけて霧がよく見られます。



アメリカ航空宇宙局作成画像を元に作図

※1 谷の沢に沿った部分。「尾根」の逆で、低いところをつなげたライン。

ふだんは水が流れているが、水がなくても谷になってつながっているところ。

ない りく せい き こう とく ちょう 内陸性気候の特徴

安曇野市を含む松本盆地の気候を内陸性気候と呼びます。この気候は気温の変化を和らげる海から遠く離れた内陸に見られる気候で、次のような特徴があります。

- 空気が乾燥していて1日あるいは1年間の最高気温と最低気温の差が大きいこと。
- 秋から春にかけてよく晴れた夜の翌朝はかなり冷え込み、霧が発生しやすいこと。
- 霜があり、春先の農作物に被害をあたえやすいこと。
- 周りを高い山で囲まれているためフェーン現象が起きやすいこと。

フェーン現象とは乾燥した気温の高い風が山から吹きおりてくる現象です。

湿った空気が山の斜面を上昇する時、風上側で雲をつくり雨を降らせます。この空気が山を越えて風下側に吹きおりるときは雲は消えます。雲をつくり雨を降らせる区間の気温の下がり方は100mにつき0.5°Cですが、反対側で雲がなくて吹きおりる空気の気温の上がり方は100mにつき1.0°Cです。ここで0.5°Cの気温差ができます。これで風下側に風上側よりも気温の高い風が吹きおりることになるのです。

標高が3,000m前後の北アルプスの山岳地帯は、年間を通して気温も低く、強い風が吹くことが多い場所で、内陸性気候よりもさらに厳しい気候となっています。



じょう はつ ぎり 蒸発霧 (蒸気霧)

暖かい水面上を冷たい空気が渡る時、水面から蒸発した水蒸気が冷やされてできる霧です。

犀川や万水川などで秋から冬によく見られます。川霧と呼ぶこともあります。風呂場の湯気も同じ原理でできています。

5 安曇野の雪形

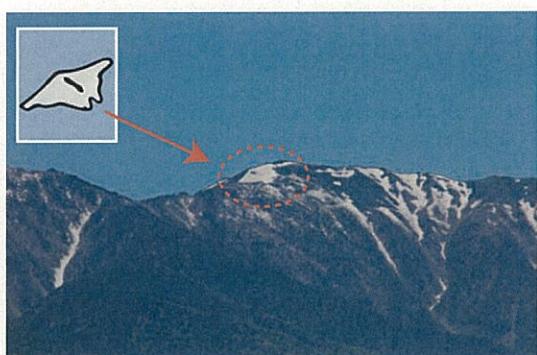


安曇野市からはたくさんの雪形を眺めることができます。

雪形は山肌に解けて残った残雪のもようを、いろいろな人や動物に見立てたもので、季節の訪れを知らせ、種まきなどの農業の時期を知らせる「目印」とされてきました。今ではその役目は終えましたが、山の名前の由来や山にまつわる伝承を今に伝えたり、観光の資源として利用されています。

雪形には、解け残った残雪の「白い雪形」と雪が解け落ちて現れた岩肌の「黒い雪形」があります。

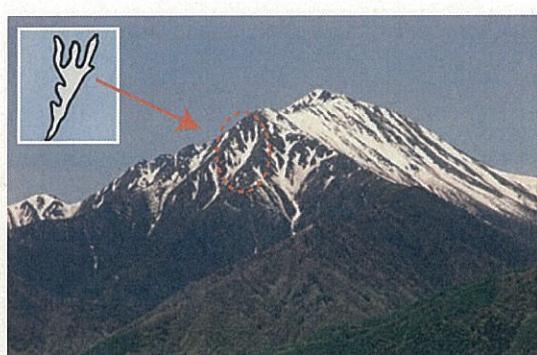
安曇野市から見える雪形



蝶 (蝶ヶ岳)

安曇野を代表する雪形のひとつで、初夏の訪れを知らせてくれます。青空に白いチョウが飛ぶ風景は本当にきれいです。チョウの雪形が出る場所は、高山チョウの生息地でもあり、雪形が消えてしまふと本物の高山チョウが姿を現わします。

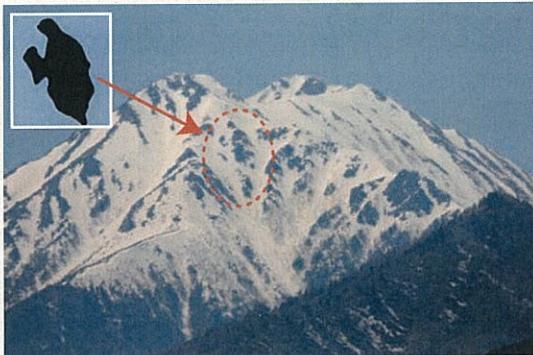
雪形が現れる山 北アルプス蝶ヶ岳南端の東面
見える場所・時期 安曇野市豊科～穂高一帯・長峰山
5月上旬～6月上旬



万能くわ (常念岳)

農作業で見かける3～4本のつめを持つ「くわ」を「万能くわ」といいます。常念岳の雪解けが進んだ頃、前常念岳の正面に、白い3本づめの万能くわが出現します。この雪形も初夏を知らせてくれる雪形のひとつです。

雪形が現れる山 北アルプス前常念岳東面
見える場所・時期 安曇野市豊科～穂高一帯・長峰山
5月中旬～5月下旬

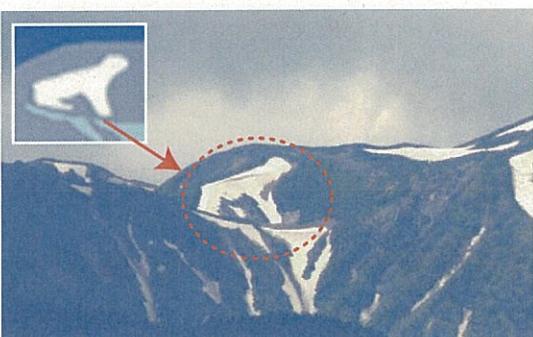


常念坊 (常念岳)

袈裟 (お坊さんの服) を着たお坊さんが徳利 (酒やしじょう油、酢などを入れる容器) を下げているように見え、最もポピュラーな雪形です。

雪形が現れる山 北アルプス前常念岳東面

見える場所・時期 安曇野市豊科～穂高一帯・長峰山
3月下旬～4月中旬

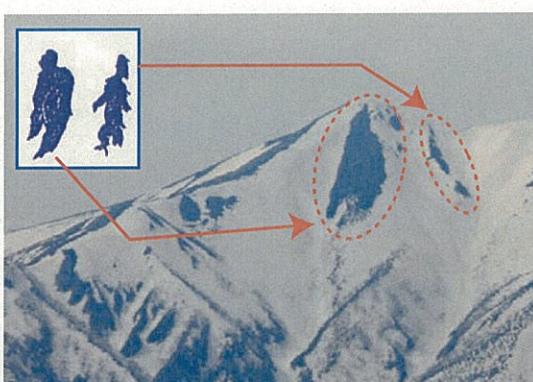


白い仔犬 (東天井岳)

安曇野市明科の限られた場所からしか見ることができません。見ることができる期間は短いですが、かわいい仔犬の雪形が現れます。

雪形が現れる山 北アルプス東天井岳 南東面

見える場所・時期 安曇野市明科 (押野地区)
6月中旬～6月下旬

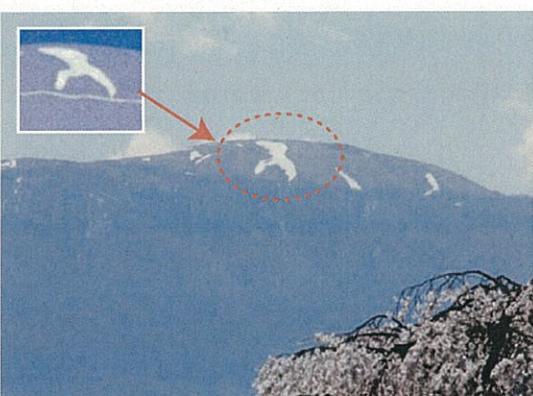


種まき爺さん (爺ヶ岳)

苗代 (稻の種をまいて育てる所) に種をまく時期を知らせる役割りをしていた「種まき爺さん」の雪形です。右側の雪形も「種まき爺さん (北の爺さん)」です。安曇野市からすこしだけ見ることができます。

雪形が現れる山 北アルプス爺ヶ岳

見える場所・時期 安曇野市穂高～大町市一帯
3月下旬～4月中旬



雁 (鉢伏山)

鉢伏山は筑摩山地の標高 1,928m の山で、美ヶ原高原の南東に位置します。

鳥の「雁」や「マ」の字にも見え、見る場所により形を変えます。畑作業の時期を知る目印とされています。

雪形が現れる山 鉢伏山の北西面

見える場所・時期 安曇野市豊科
3月下旬～4月中旬

6 安曇野の植生帯

安曇野市の植生(植物群落)は、①山地帯、②亜高山帯、③高山帯の3つに大きく分けられます。

①山地帯

標高 500～1,600m で平地部、東側の光城山や長峰山などの筑摩山地、西側の北アルプスの下の部分です。山地帯は、さらに標高約 1,100m 前後を境にして、下の部分をクリ帯、上の部分をブナ帯に分けられます。

クリ帯の植生は長い間の人々の開発により、自然植生(自然のままに生息している植物の集まり)はほとんどありません。ここは大部分が水田・畑・住宅地などになっています。また、山ろく部はアカマツの二次林(植林や自然に生えてきた森林)やクヌギ・コナラなどの薪炭林(薪や木炭を取るための森林)になっています。昭和 20 年代から 30 年代にかけて植林されたアカマツ、カラマツ、スギ、ヒノキなどの植林地になっています。

ブナ帯のブナは、湿気の多い環境を好むため、内陸性気候の安曇野市ではほとんど見られません。長い間の人々の開発により、代償植生(人工的に置き換えられた植物の集まり)のミズナラ林やカラマツなどの植林地になっています。

②亜高山帯

標高 1,600～2,500m の北アルプスの真ん中の部分から上の部分で、シラビソ帯ともいわれ、コメツガやシラビソなどの常緑針葉樹(マツやスギなど葉が針のように細長く一年中緑色の葉をついている木)の自然植生です。遠くから眺めると黒々とした森林です。

③高山帯

標高 2,500m 以上の北アルプスの一番高い部分でハイマツ帯といわれます。気候的に厳しい環境のために高木林はできず、背の低いハイマツ群落があります。コマクサやアオノツガザクラ、ヨツバシオガマなどの草本群落(いくつもの草花の集まり)も見られます。ここはお花畠とも呼ばれ、花の色が鮮やかで登山した人だけが目にすることができます。これらは大変貴重な自然植生です。



ハイマツ



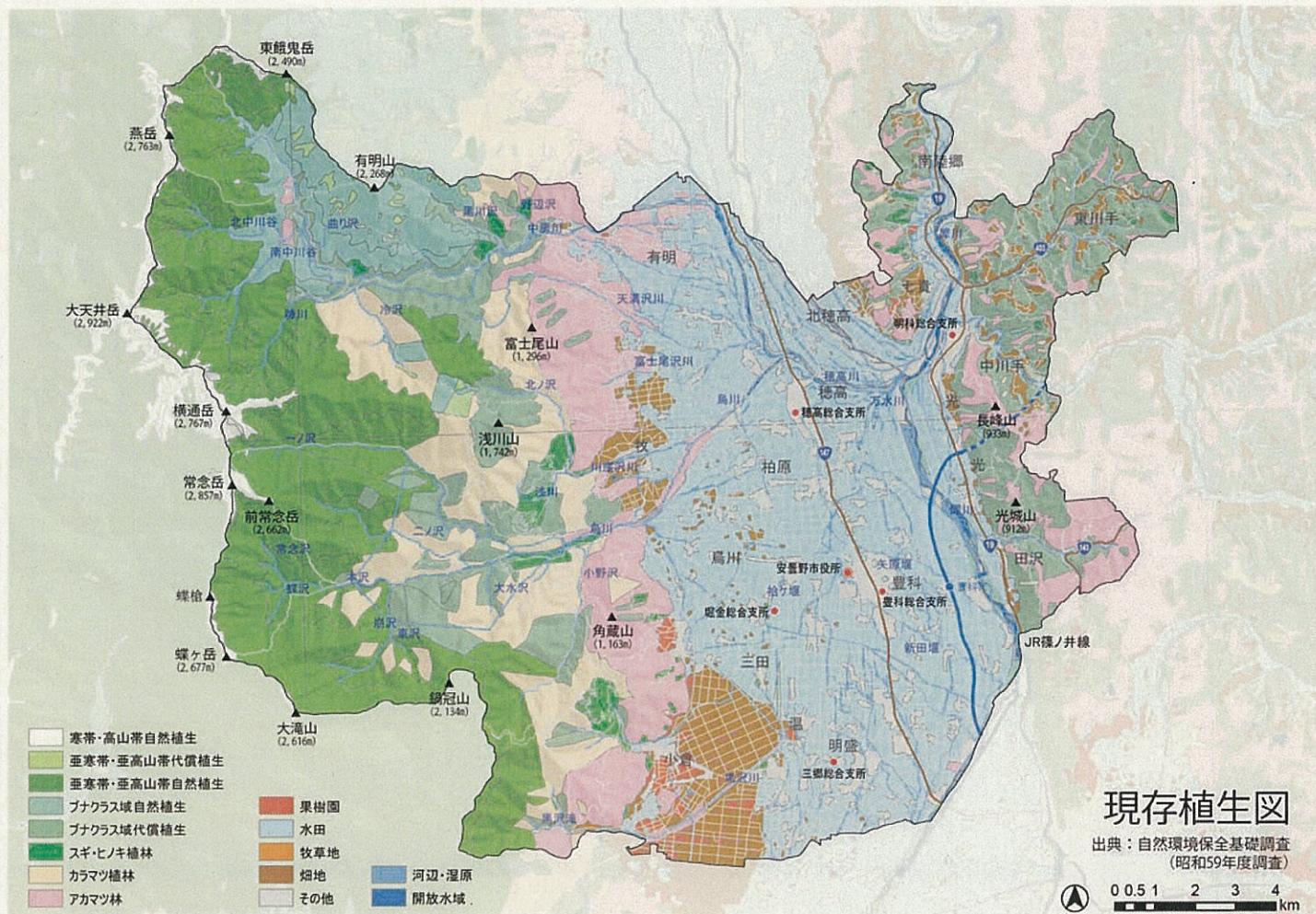
コマクサ



アオノツガザクラ

植生帯と主な植物

標高	垂直分布	植生帯	主な植物	主な動物
2,500m~	高山帯	ハイマツ帯	ハイマツ、ウラジロナナカマド、コマクサ、チングルマ	ライチョウ、タカネヒガケ、タカネキマダラセセリ
1,600~2,500m	亜高山帯	シラビソ帯	シラビソ、コメツガ、トウヒ、ダケカンバ、カニコウモリ、オサバグサ	オコジョ、オオルリ、ミヤマモンキチョウ
1,100~1,600m	山地帯上部	ブナ帯	ミズナラ、コミネカエデ、マイヅルソウ、シラカンバ、シナノザサ	ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ニホンザル、ニッコウイワナ
500~1,100m	山地帯下部	クリ帯	コナラ、ケヤキ、クヌギ、ヤマブキ、キキョウ、オミナエシ	ホンドタヌキ、ホンドキツネ、コハクチョウ



安曇野市環境基本計画より

がい こく 外国からやってきた植物

市内の道ばたや川原では、アレチウリやオオカワヂシャ、ハリエンジュ（ニセアカシア）など、外国からやってきた植物が多く見られます。これらの植物は、人間の活動によって外国から入って来て、日本で野生化しました。このような植物を『帰化植物』といいます。

帰化植物は、種子がたくさんつき、発芽がよく、成長も早いので、一度広がると処分することが難しくなります。帰化植物をこれ以上増やさないために取り除くことが大切です。



アレチウリ

10mものつるを延ばし、木を被って枯らしてしまいます。



オオカワヂシャ

(県環境保全研究所提供)

日本にもともとあるカワヂシャとの雑種をつくるため、カワヂシャが減っています。



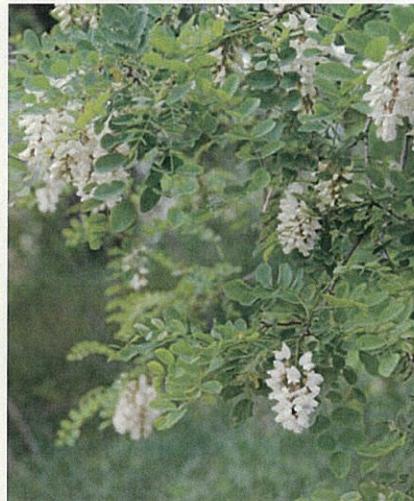
オオバタクサ

花粉症の原因になっています。



セイヨウタンポポ

日本にもともとあるシナノタンポポとの雑種をつくるため、シナノタンポポが減っています。総苞片が反り返っているのが特徴です。



ハリエンジュ（ニセアカシア）

根の張りが浅いため、雨で大量の水が出たときに流れやすく、水害を引き起こしています。

7 安曇野に生息する代表的な生物



ライチョウ

北アルプスの 2,500m以上の高山帯にすみ、氷河時代の生きの
こり動物の1つで、国の特別天然記念物※1に指定されています。

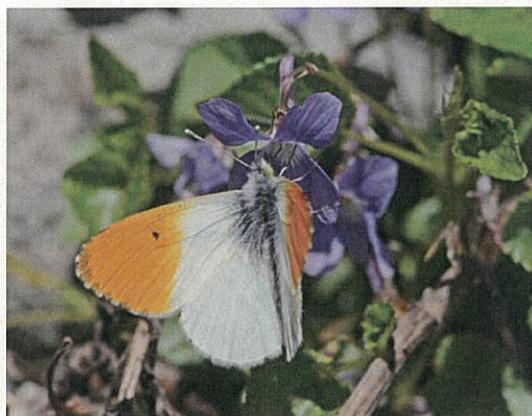
翼の長さは約 20cm。眼の上部に朱色のとさかがあります。夏は
背中とのど・胸は黒く、茶色のまだらが多くあり、風切羽・腹は白く
尾羽は黒色です。冬は羽毛が真っ白にかわりますが、尾羽の外が
わと、オスの眼先には黒がのります。

日本にはライチョウとエゾライチョウがいて、ライチョウは長野県・
岐阜県・富山県の県鳥となっています。



タカネヒカゲ

常念岳や蝶ヶ岳の標高 2,500m 以上の稜線（山の峰と峰を結ん
だ線）に生息する高山チョウです。羽を広げたときの大きさは約
4.8cm。羽のもやは高山の石や岩にそっくりで、地面に止まると風
景にとけこみわかりにくくなります。成長が遅く、幼虫で 2 度の冬を
越し、3 年目で羽化（チョウになること）します。安曇野市の写真
家である田淵行男は、高山蝶の生態を観察した本のなかで、タカ
ネヒカゲを「ハイマツ仙人」と呼んでいました。



クモマツマキチョウ

北アルプスに続く烏川や中房川に生息する高山蝶です。羽を
広げたときの大きさは約4 cm。モンシロチョウと同じシロチョウの
仲間ですが、オスは前のはねの先があざやかな「だいだい色」
をしています。とてもきれいなチョウとして人気があります。幼虫
はミヤマハタザオ、イワハタザオなどのアブラナ科の植物を食べ
ます。さなぎで冬を越し、年1回、5月から7月頃までがたを
あらわします。



オコジョ

本州中部より北にすんでいます。イタチに似ていますがそれよりも小さく、オスは頭から胴までの長さ約 20cm、尾の長さが 10cm、メスはさらに小さくなります。夏毛は背がチョコレート色、腹は白色。冬毛は尾のさきの黒をのこして全身真っ白になり、雪の中にいてもわかりません。肉食でネズミなどを食べますが、ときにはライチョウをおそうともあるといいます。



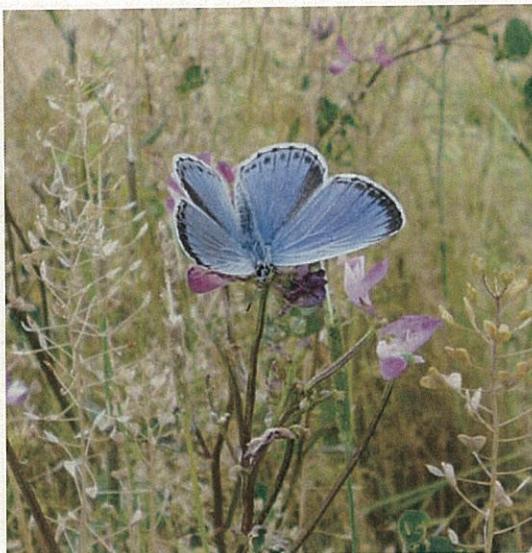
オオルリ

全長約 16cm。オスは目の覚めるような美しい青色をしています。メスはオリーブ色です。
初夏をつげる鳥として日本に 4 月下旬ごろ飛んできて全国各地で子育てをし、東南アジアで冬を越します。さえずりは美しく、ウグイス、コマドリとならび日本三鳴鳥とされています。安曇野市では堀金の烏川や穂高の中房川、明科の会田川沿いなどで見ることができます。



ムカシトンボ

全長は約 5cm。ヤンマのような体をしているのに、イトンボのように羽をたたんで止まります。1 億 5 千万年の原始的なトンボの形を伝えることから、「生きた化石」ともよばれています。日本の山あいのきれいな小川にすみ、幼虫は 8 年ほどをかけて成虫になるといわれています。毎年、5 月から 6 月頃に姿を見ることができます。安曇野市では三郷の黒沢、堀金の烏川などで見ることができます。



オオルリシジミ

本州と九州の一部にすむチョウで、はねのおもてがきれいな青色（るり色）のため、この名前がつきました。羽をひろげた長さが35mmほどの中型のシジミチョウで、草原や田んぼのあぜなどにすんでいます。幼虫はクララの花やつぼみだけを食べます。成虫は年1回、5月中旬から6月に見られ、さなぎで冬を越します。本州のオオルリシジミは開発などで減り続け、現在、安曇野市、東御市、飯山市の3地域だけになってしまいました。

安曇野市のオオルリシジミは、長年、保護活動が続けられており、毎年、国営アルプスあづみの公園で見ることができます。



信州ツキノワグマ研究会提供

ツキノワグマ

本州の中部地方から東北にかけてと四国の山地にすんでいます。体長120～145cmで体重は70～120kg。全身つやつやで真っ黒、「のど」の下に三日月形の白いもようがあります。春先は若芽・草、夏は果実、秋はどんぐりなどを食べます。アリやハチの幼虫も好んで食べますが、ニホンジカやニホンカモシカなど大型動物を食べることもあります。最近では森林の環境が変わってきて、どんぐりのなる木が減るなどのえさ不足のため、里に出てきて人を襲ったり、農作物をあらしたりすることが続いている。



ニホンカモシカ

国の特別天然記念物で、本州、四国、九州の標高500m～2,000mの山地にすんでいます。体長は約1m。体重は約40kgで、約15cmになる2つの角をオス、メスともに持っています。視力、臭覚、聴覚はするどく、足のひづめは広がって、急な山岳でもすばやく動けるようになっています。木の葉、草、ササ、冬芽、樹皮などを好んで食べます。単独で行動し、なわばりをもらいます。明治・大正のころに毛皮や肉が好まれ数が減りましたが、保護したことによりふえて、樹木の苗木を食べるなどの被害を生んでいます。安曇野市では北アルプスへ続く山地でよく見かけるほか、長峰山や光城山などの東山にもすんでいます。



ニホンザル

日本にしかいないサルで、本州、四国、九州の森林にすんでいます。体長約 60cm。体重は 18kg。いつも 30～50 頭のむれでぐらしています。雑食で、果実・木の芽・昆虫などを食べます。近年、サルの数がふえたり森林の環境が変わったりして、ニホンザルのむれが人里におりてくるようになり、農作物などの被害がふえてきています。安曇野市では、西山の里山から高山にいたる山地の広い範囲で見ることができます。



カジカ

日本にしかいない魚で、北海道南部より南の日本各地の清らかで冷たい川にすんでいます。安曇野市では穂高川、犀川流域で見られます。全長約 15cm。体の色は地域や環境によって大きくちがいが出ます。水生昆虫や小魚などを食べます。とてもおいしい魚で、旧穂高町では特産物としてつかわれました。三川合流（穂高川、高瀬川、犀川）付近では、冬季間「ウケ」※2 を使ったカジカ漁が行われています。



ヤマネ（別名：ニホンヤマネ）

日本にしかいない動物で、北海道をのぞく各地の森林にすみ、冬は、まん丸になって冬眠します。全長約 8cm で、体つきは丸く、背中に一本の黒い線があります。足は短く耳も小さいです。夜に活動し、果実、昆虫などを食べます。森林伐採などによって数が減ってしまったため、国の天然記念物に指定されています。安曇野市では、西山の森林で見ることができます。



ムササビ

北海道をのぞく森林にすんでいます。全長は 40cm ほどで、前と後ろの足の間に飛ぶための「まく」が発達し、木から木へ飛びうつついで移動します。昼は木の「うろ」にかくれ、夜に活動し、木の芽・果実を食べます。安曇野市では、西山、東山の山ろくにすんでいます。特に市の木に指定されているケヤキの「うろ」を好むため、夜、神社や寺など境内の空間を飛んでいるのを見かけます。



コハクチョウ

全長 115 - 150 cm。翼をひろげると 180 - 225 cm。全身の羽は白色。主に、水草の葉・クキ・根・種・果実などの植物を食べます。安曇野市では、田畠、水田で地上を歩きながら草の種をついぱんだり、草の穂をしごいたり、水面でくちばしを動かしてこしとつたりする姿を見ることができます。浅い水中に首を入れたり、逆立ちになって上半身を入れたりして、水底の草などを食べます。首が長いため、カモ類の中ではより水底の食べ物を食べることができます。

平成24年2月には約1,300羽の白鳥が安曇野市に飛来しました。



ニジマス

体全体にはつきりした黒い点があり、エラから尾びれにかけて赤から赤紫色のもようがあります。肉食で、水生昆虫や貝類、エビ、カニなどのこうかく類、他の魚の卵や小魚などを食べます。

日本での歴史は、アメリカ・カリフォルニア州からも入ってきたのがはじまりとされています。

卵を産み、育てる時期のオスの体には、とてもきれいな虹色のかがやきがあらわれるので、レインボートラウトともよばれています。全長は約 40 cmですが、大きいものでは 60 cm ~ 1mになることがあります。日本で初めてのニジマスの養殖地は安曇野明科です。

※1 日本にしかない、学問の上でも重要な動植物や鉱物で、日本の自然を記念するものである天然記念物の中でも世界的に価値が高いと法律で指定されたもの。

※2 魚をとる道具のひとつ。細い竹を編んでつくり、入ると出られないようにしたもの。これを水の中に沈めておいて、中にはいった魚をとらえる。

企画 安曇野市教育委員会 社会教育課
製作 エービーシー株式会社
発行日 平成24年11月